

目 次

省コストなサケ増殖手法「発眼卵放流」の導入を目指した研究の紹介 飯田真也（資源管理部・沿岸資源グループ）	3
能登・佐渡沖合域の流れ場とブリ来遊の経年変動 和川拓（資源環境部・海洋動態グループ）、 久保田洋（資源管理部・資源管理グループ）	6
カニ幼生の“内的な発育最適温度”の推定 山本岳男（資源生産部・資源増殖グループ）	9

表紙の解説

川底に埋設放流するサケ発眼卵

写真撮影および解説 飯田真也（資源管理部・沿岸資源グループ）

発眼卵放流では、パイプを通じて発眼卵を川底に流し込み埋設する。発眼卵は衝撃に非常に強く、本作業によってダメージを受けることはない。仔魚・稚魚期の飼育コストを必要とせず、現行の稚魚放流に比べて省コストな増殖手法である。放流された卵は河床内の浸透水で呼吸することから、それらの生残率を高めるためには、新鮮な水が十分供給されるよう、通水性の高い場所に放流することが重要である。